

法政大学大学院
社会学研究科 社会学専攻 博士後期課程

研究業績目録

2019年3月31日現在

目次

野口百合子	(1)
高橋誠一	(3)
岩城邦義	(5)
吉田公記	(6)
宮下阿子	(7)
原 百年	(9)
山田唐波里	(11)
松下峻也	(12)
山口壘	(13)
鱈部行崇	(14)

ふりがな 氏名	のぐち ゆりこ 野口 由里子
専攻	社会学、生活史
2003年 1月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会、関東社会学会、社会・経済システム学会

学歴	
2001年 3月	法政大学社会学部政策科学学科卒業
2003年 3月	法政大学大学院社会科学研究所社会学専攻修士課程修了
2014年 3月	法政大学大学院社会科学研究所社会学専攻博士課程単位取得満期退学
職歴	
2010年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「演習2」「演習3」担当、2011年3月まで)
2010年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門A」担当、2012年3月まで)
2014年 9月	法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ リサーチ・アシスタント(2017年9月まで)
2014年 9月	江戸川学園江戸川大学総合福祉専門学校非常勤講師(「社会調査の基礎」担当、現在に至る)
2015年 4月	江戸川学園江戸川大学総合福祉専門学校非常勤講師(「社会理論と社会システム」担当、現在に至る)
2017年 4月	江戸川学園江戸川大学総合福祉専門学校非常勤講師(社会福祉士養成科通信課程「社会理論と社会システム」担当、現在に至る)
2017年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、現在に至る)
2017年 12月	法政大学大原社会問題研究所嘱託研究員(現在に至る)

学術論文(うち査読付き1編)	
「「ホスピス」の<理念><イメージ><体験>の検討―「ホスピス」の事例分析からみえてくるもの」修士学位論文	
『『病い』の経験が『闘病』日記として綴られるとき ―高見順・池田泰佑・絵門ゆう子の事例から―』法政大学社会学部『社会志林』61巻1号、2014年、pp.151-171(査読有)	
「なぜ闘病記は書かれるのか ―ルソーの『告白』を手掛かりに」江戸川大学総合福祉専門学校「江戸川学園人間科学研究所紀要」31号、2015年、pp.29-45	
「なぜ闘病記の増加現象は起きたのか - M・チクセントミハイの「創造性理論」とM・ウェーバーの「苦難の神義論」の観点から」江戸川大学総合福祉専門学校「江戸川学園人間科学研究所紀要」32号、2016年、pp.1-18	
「アーカイブズにおけるミニコミ資料利用の展開の可能性 -ミニコミ資料『ブーゲンビリア』の事例分析から-」法政大学大原社会問題研究所「大原社会問題研究所雑誌」694号、2016年、pp.27-40	
「千葉敦子の闘病記に見られる諸特徴:「死を殺した女」と「闘う女」の観点から」江戸川大学総合福祉専門学校「江戸川学園人間科学研究所紀要」33号、2017年、pp.33-50	
「日本の闘病記における「自分らしい生／自分らしい死」のあり方についての考察 - 「闘病」記から「逃病」記への変容の観点から -」法政大学社会学部『社会志林』64巻4号、2018年、pp.89-107	
「1960年代の闘病記から見る自己納得へいたる「自分らしい生／自分らしい死」の解釈 - 岸本英夫の闘病記『死を見つめる心』から -」江戸川大学総合福祉専門学校「江戸川学園人間科学研究所紀要」34号、2018年、pp.35-56	
学会発表・招待講演	

「日本におけるホスピス導入過程の再検討 -現在のホスピス考察へ向けて-」日本社会学会80回研究大会、於 法政大学、2007年11月
「医療システムと闘病記に関する試論」社会・経済システム学会27回研究大会、於 早稲田大学、2008年10月
「“闘病記なるもの”の検討 闘病記の定義化へむけて」関東社会学会57回研究大会、於 関東学院大学、2009年6月
「寄り添う者によって出版された闘病記分析の試み—妻の病いの軌跡を夫が闘病記のなかで語るとき」関東社会学会58回研究大会、於 中央大学、2010年6月
【招待講演】「“闘病記なるもの”の検討 - 千葉敦子の闘病記から見るその生成と展開」闘病記研究会(平成24年度厚生労働科学研究費補助金:第3次対がん総合戦略研究事業)、於 京都大学東京オフィス会議室、2013年1月
「アーカイブズにおけるミニコミ資料利用の展開の可能性」大原社会問題研究所定例研究会、於 法政大学、2016年4月
研究報告書・翻訳など
【翻訳】V.B.マーティン、A.ユンニルド編・志村健一、小島道代、水野節夫 監訳『グラウンデッド・セオリー -グレイザーの哲学、方法と仕事』ミネルヴァ書房、2017年(第14章「どっしりと根を張ったバーニー・グレイザー」を担当、pp.343-362)

ふりがな 氏 名	たかはし せいいち 高橋 誠一
専攻	社会学、国際社会学
2008年 3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会、移民政務学会

学 歴	
2004年 3月	法政大学社会学部社会政策科学科卒業
2006年 4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程入学
2008年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
2008年 4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学
2017年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学
職 歴	
2009年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当、2011年3月まで)
2010年 4月	日本学術振興会特別研究員(DC2)(2012年3月まで)
2012年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当、2013年3月まで)
2012年 10月	法政大学サステナビリティ研究機構リサーチアシスタント(2013年3月まで)
2013年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「政策研究実習」担当、2014年3月まで)
2013年 4月	川崎市外国人市民施策専門調査員(現在に至る)
2014年 4月	法政大学大学院グローバル化と移民問題研究所特任研究員(現在に至る)
2016年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、2017年3月まで、「国際社会学Ⅰ」担当、2017年9月まで)
2017年 9月	法政大学社会学部兼任講師(「国際社会と民族」担当、2018年3月まで)
2018年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、現在に至る)
2019年 4月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科非常勤講師(「社会理論と社会システム」担当、現在に至る)

著 書	
宮島喬・吉村真子編『現代社会研究叢書7 移民・マイノリティと変容する世界』法政大学出版局、2012年(第9章「クルド問題をめぐる公共圏とその変容——在外クルド人の展開とトルコ国内の変化に着目して」を分担執筆、pp.229-25)	
渋谷淳一・本田量久編『21世紀国際社会を考える——多層的な世界を読み解く38章』旬報社、2017年(第Ⅱ部第5章「移民の統合をめぐる問題——イギリスを中心に」を分担執筆、pp.126-35)	
学 術 論 文 (う ち 査 読 付 き な し)	
『「クルド・ネイション」の構築と『在外クルド人』——統合と分化／差異化をめぐる諸相』修士学位論文、2008年	
「ネイションとインターネット」法政大学大学院『法政大学大学院紀要』第62号、2009年、pp.89-98	
『〈他者〉の統治とシティズンシップ——包摂／排除のメカニズムとそのグレーゾーンをめぐる』法政大学社会学部学会『社会志林』第57巻4号、2011年、pp.253-268	

学会発表・招待講演

「1980年代以降におけるクルド人の『ネイション』形成に関する一考察——脱領域的な『ネイション』の形成と言語的多様性に着目して」日本社会学会第81回大会、於東北大学、2008年11月

「クルド人の(不確かな)ナショナル・アイデンティティに関する考察——ネイションをめぐる主観的自己理解／客観的定義の二重性と再帰性」日本社会学会第82回大会、於立教大学、2009年10月

「ドイツにおける在外クルド人のアイデンティティ理解と権利要求——ナショナル・アイデンティティの境界と領域をめぐって」日本社会学会第83回研究大会、於名古屋大学、2010年10月

「ネオリベラルな統合モデルにおける移民コミュニティの位置づけに関する一考察——イギリスにおけるクルド人コミュニティを事例として」移民政策学会2011年度冬季大会、於名古屋市立大学、2011年12月

研究報告書・翻訳など

【報告書】『『クルド人』と『公共圏』——『在外クルド人』の展開と分断横断的なメディア空間の登場』(科学研究費補助金研究成果中間報告書、船橋晴俊編『公共圏の創成と規範理論の探究——現代的社会問題の実証的研究を通して 論文集(Ⅰ)』、研究代表者:船橋晴俊、2008年、pp.101-117)

【報告書】「トルコにおけるマイノリティ問題としての『クルド問題』——EU加盟へむけた『国内改革』と残された課題」(科学研究費補助金研究成果中間報告書、吉村真子編『グローバル化における移民・マイノリティ・公共圏』、研究代表者:船橋晴俊、2010年、pp.138-148)

【報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査報告書』川崎市市民・こども局人権・男女共同参画室、2015年

【報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査(インタビュー調査)報告書』川崎市市民・こども局人権・男女共同参画室、2016年

【翻訳】ロジャース・ブルーベイカー著、佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店、2016年(第5章「同化への回帰か?——フランス、ドイツ、アメリカにおける移民をめぐる視座の変化とその帰結」と第7章「分析のカテゴリーと実践のカテゴリー——ヨーロッパの移民諸国におけるムスリムの研究に関する一考察」を担当、pp.200-231, 288-301)

ふりがな 氏名	いわき くによし		
	岩城 邦義		
専攻	宗教社会学、アメリカ研究		
	2009年	3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会、「宗教と社会」学会、ソシオロジ		

学歴	
2002年	3月 埼玉県立大宮高等学校卒業
2007年	3月 法政大学社会学部社会学科卒業
2009年	3月 法政大学大学院社会学研究科博士前期課程修了
2018年	3月 法政大学大学院社会学研究科博士後期課程満期退学
職歴	
2016年	4月 法政大学社会学部兼任講師(現在まで)

学術論文(うち査読付きなし)
「民主主義と連帯—二次的集団による連帯の構築と政治的参加拡大の可能性—」修士学位論文、2009年
学会発表・招待講演
「政治的参加を動機づけする家族—1970年代アメリカにおけるフィリス・シュラフリーの活動から—」日本社会学会第85回大会、於札幌学院大学、2012年11月
「アメリカにおける中絶論争の背景—教会における家族観の変容からの考察—」「宗教と社会」学会第18回学術大会、於立命館大学、2010年6月
研究報告書・翻訳など
【翻訳】ロジャース・ブルーベイカー著、佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石出版、2016年(第3章「ナショナリズム、エスニシティ、近代」を担当、pp.94-113)

ふりがな 氏 名	よしだ こうき 吉田 公記
専攻	国際社会学、イギリス研究
2007 年 3 月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会、関東社会学会、移民政策学会

学歴	
2005 年 3 月	法政大学 社会学部社会学科 卒業
2005 年 4 月	法政大学大学院 社会学研究科社会学専攻 修士課程 入学(2007年3月修了)
2010 年 4 月	法政大学大学院 社会学研究科社会学専攻 研究生(2011年3月まで)
2011 年 4 月	法政大学大学院 社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 入学
職歴	
2016 年 4 月	法政大学社会学部 兼任講師
年 月	* 2016年度『基礎演習』(春学期・秋学期)
年 月	* 2017年度『外書講読(英語)』(春学期・秋学期), 『地域研究(西欧)』(秋学期)
年 月	* 2018年度『外書講読(英語)』(春学期・秋学期)

学術論文(うち査読付き1編)
吉田公記, 2018「ワークフェア型福祉国家における移民の包摂と排除——イギリスの排外主義政党UKIPの躍進背景の考察」『年報社会学論集』31:48-59.

ふりがな 氏名	みやした あこ 宮下 阿子		
専攻	社会学		
	2011年	9月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会、日本保健医療社会学会		

学歴	
2009年 3月	法政大学社会学部社会学科卒業
2011年 9月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
2018年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学
職歴	
2013年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当、2014年3月まで)
2014年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門A」担当、2015年3月まで)
2015年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「演習2」「演習3(卒業論文)」担当、2016年3月まで)
2015年 9月	法政大学大学院公共政策研究科ティーチングアシスタント(「社会調査法8(質的資料分析法)」担当、2015年11月まで)
2016年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「家族社会学Ⅰ・Ⅱ」担当、2017年3月まで)
2017年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、現在に至る)
2018年 4月	埼玉県立高等看護学院非常勤講師(「社会学」担当、現在に至る)
2019年 4月	西新井看護専門学校非常勤講師(「情報科学Ⅰ・Ⅱ」担当)

著書
岡原正幸編『感情を生きる——パフォーマンス社会学へ』慶應義塾大学出版会、2014年(第4章「く私」を揺さぶる他者を前に——調査者(聞き手)が語り手になるとき)を分担執筆、pp.56-74)
学術論文(うち査読付き2編)
「食」にあらわれる『苦しみ(suffering)』の諸相——〈摂食障害〉を抱える生活者たちの『語り』からの一考察」修士学位論文、2011年
「対話的構築から対話的還元へ——研究者が『当事者でもあること』を問いなおす」三田社会学会『三田社会学』19号、2014年、pp.20-33
「過食・嘔吐という『危期』を乗り越える——当事者が語る『罪悪感』を手がかりとして」日本保健医療社会学会『保健医療社会学論集』29巻1号、2018年、pp. 61-71(査読あり)
「く生まれなおし」のプロセスとしての摂食障害——ある拒食と過食の語りから」法政大学社会学部学会『社会志林』65巻3号、2018年、pp. 55-77(査読あり)
学会発表・招待講演
「食」をめぐる出来事としての〈摂食障害〉——〈当事者〉たちの生きられた経験の記述に向けて」第85回日本社会学会大会、於札幌学院大学、2012年11月
「当事者と他者のあいだで——〈摂食障害〉の生きられた経験へ」2013年度三田社会学会大会シンポジウム、於慶應義塾大学、2013年7月
「食」を拒むことが意味するもの——『死にたい』ではなく、『消えたい』」第86回日本社会学会大会、於慶應義塾大学、2013年10月

「先天性心疾患とともに生きる人々の社会生活と生活史(2)——ライフコースの選択と社会生活の再定義をめぐって」第40回
日本保健医療社会学会大会、於東北大学、2014年5月

研究報告書・翻訳など

【エッセイ】「摂食障害における『くうこと』と『くうもの』」『支援 Vol.6』生活書院、2016年、pp.160-166

ふりがな 氏名	はら もとし 原 百年		
専攻			
	1998年	6月	政治学 修士学位取得 テキサス大学
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会、黒人研究学会、異文化コミュニケーション学会		

学歴			
1993年	6月	オレゴン大学国際研究学部 卒業	
1994年	6月	ジョンズホプキンス大学・南京大学中米研究センター中国研究プログラム 修了	
1998年	6月	テキサス大学オースチン校大学院政治学部博士課程 中退	
2012年	4月	法政大学大学院社会学部社会学研究科博士後期課程 入学	

著書	
「国際化する日本社会」山梨学院大学政治行政研究会編『政治行政入門』公人の友社、2017年、913-207頁。共著	
『ナショナリズム論—社会構成主義的再考』有信堂、2011年。	
「ナショナリズムとエスニシティ」山梨学院大学政治行政研究会編『入門 政治行政』公人の友社、2008年、243-51頁。共著	
「日露戦争と沖縄—沖縄人のヤマト化に与えた影響」山梨学院大学ポーツマス講和100周年記念プロジェクト編『日露戦争とポーツマス講和』、2006年、122-49頁。共著	
学術論文(うち査読付き1編)	
「ブラック・ナショナリズムの源」山梨学院大学法学研究会『法学論集』(77)、2016年、91-129頁。	
「ナショナリストたちのネーションの語り—「ガーゲン・モデル」の応用—」法政大学社会学部学会『社会志林』60(4)、2014年、37-69頁。(査読あり)	
「ナショナルリティ生成の分析枠組み：社会構成主義と他のアプローチの接合」山梨学院大学法学研究会『法学論集』(72)、2014年、330-310頁。	
「ナショナリズム論：近代主義の再考」山梨学院大学法学研究会『法学論集』(64)、2010年、154-69頁。	
「ナショナリズム論—エスノシンボリズムの再考」山梨学院大学法学研究会『法学論集』(62)、2009年、25-60頁。	
「ナショナリズム論—エスニック／シビックの二分法の再考」山梨学院大学法学研究会『法学論集』(61)、2008年、137-204頁。	
「ナショナリズム論—原初主義の再考」山梨学院大学『法学論集』(59)、2007年、1-70頁。	
「国際政治学・ネオリアリスト理論による民族紛争の分析—その批評とエスニシティ・ナショナリズム論の再考」山梨学院大学法学研究会『法学論集』(57)、2007年、131-52頁。	
‘Why People in Xinjiang Rebel?’ 山梨学院大学法学研究会『法学論集』(53)、2005年、114-52頁。	
「マレーシアの民族間対立—エリートレベルと民衆レベルの意識的差異」山梨学院大学『一般教育部論集』(25)、2003年、57-72頁。	

「沖縄人のヤマト化—仮想体験による民族意識の形成」山梨学院大学『社会科学研究』(27)、2003年、61—82頁。

「新疆における民族紛争の源」山梨学院大学『一般教育部論集』(23)、2001年、87—120頁。

‘A Comparative Study of State-Xinjiang Relations under the Qing and the People’s Republic of China’ 山梨学院大学『一般教育部論集』(22)、2000年、61—104頁。

ふりがな 氏名	やまだ からはり 山田 唐波里
専攻	社会学
2015年 3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会

職歴	
2015年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当, 2016年3月まで)
2016年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当, 2017年3月まで)
2017年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当, 2018年3月まで)

学術論文(うち査読付きなし)
「人口を統制すること——日本社会における人口概念の展開——」修士学位論文, 2015
「人口概念の歴史的基層——近代日本における人口概念の編成過程」『社会志林』64巻2号, 2017年, pp57-73(査読あり)
学会発表・招待講演
「人口をめぐる知——日本社会における人口概念の展開」日本社会学会第88回大会, 於早稲田大学, 2015年9月
「近代的統治戦略としての〈均衡化〉——『人口方程式』の編成と政策論への導入」日本社会学会第90回大会, 於東京大学, 2017年11月

ふりがな 氏 名	まつした しゅんや 松下 峻也		
専攻	社会学		
2 0 1 6	年 3	月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本マス・コミュニケーション研究学会、日本社会学会		

学歴			
2014年	3月	法政大学社会学部メディア社会学科	卒業
2014年	4月	法政大学社会学研究科社会学専攻	修士課程 入学
2016年	3月	法政大学社会学研究科社会学専攻	修士課程 修了
2016年	4月	法政大学社会学研究科	研究生 (2017年3月迄)
2017年	4月	法政大学社会学研究科社会学専攻	博士後期課程 入学 (現在に至る)
職歴			
2016年	4月	法政大学社会学部「メディア社会学入門A」	T・A(2018年1月迄)
2018年	4月	法政大学社会学部「社会学入門B」	T・A(2019年1月迄)
2018年	4月	法政大学社会学部「メディア社会研究法A」	T・A(2018年7月迄)
2018年	9月	法政大学社会学部「メディア社会研究法B」	T・A(2019年1月迄)

著書	
松下峻也, 2018, 「核エネルギーのテレビ的表象の系譜学」小林直毅編著『原発震災のテレビアーカイブ』法政大学出版局.	
学術論文(うち査読付き 1編)	
松下峻也, 2015, 「メディア・アーカイヴとテレビ——テレビ・ドキュメンタリー研究の再考」『社会研究』第45号.	
松下峻也, 2016, 修士論文「核の表象と経験、そして記憶——テレビの記録と技術としてのアーカイヴ」法政大学社会学研究科(2016年度提出)	
松下峻也, 2018, 「アーカイヴ化されたテレビ番組が描くビキニ事件」『マス・コミュニケーション研究』第92号.	
松下峻也, 2018, 研究ノート「『八月ジャーナリズム』が描く被爆と『長崎』で想起する朝鮮人被爆者の記憶」『社会研究』第48号.	
学会発表・招待講演	
日本マス・コミュニケーション学会研究報告会「核をめぐるテレビ番組の系譜学と、原発震災のテレビアーカイヴ」(2018年6月23日学習院大学)	

ふりがな	やまぐち るい		
氏名	山口 塁		
専攻	産業社会学、日本企業における外国人労働者の活用		
	2009年	3月	社会学 修士学位取得 (立教大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会、関東社会学会、日本労働社会学会、移民政策学会、日本労務学会		

学歴			
2003年	3月	神戸大学経営学部経営学科卒業	
2009年	3月	立教大学大学院社会学研究科博士課程前期課程修了	
2016年	4月	法政大学大学院社会学研究科博士後期課程入学(現在に至る)	
職歴			
2012年	4月	立教大学社会情報教育研究センター リサーチアシスタント(2016年3月まで)	
2013年	4月	法政大学社会学部兼任講師(「産業社会学」担当、2014年3月まで)	
2013年	4月	(独)労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員(2017年度より研究助手、現在に至る)	
2015年	4月	法政大学通信教育部兼任講師(「人的資源管理論」担当、現在に至る)	
2016年	4月	文京学院大学人間学部非常勤講師(「産業社会学」担当、現在に至る)	
2016年	9月	法政大学キャリアデザイン学部兼任講師(「キャリア研究調査法(質的調査)」担当、2017年度まで)	
2017年	4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、2018年3月まで)	

学術論文(うち査読付き2)	
「技能実習生受け入れに対する自治体の支援と『多文化共生』——埼玉県川口市での取り組み事例から」(『移民政策研究』10号、2018年、pp. 95-110)	
「非正社員の一類型としての技能実習生へのニーズ——製造中・大企業での活用事例からの検討」(『文京学院大学人間学部研究紀要』20号、2019年、pp.93-105)	
学会発表・招待講演	
「労働力から人材へ? ——製造中・大企業における新しい技能実習制度活用見通しの検討」移民政策学会 2018年度年次大会、東京大学、2018年5月	
「職場における能力開発についての管理職の評価・認識をめぐる分析」日本労務学会 第48回全国大会、九州産業大学、2018年7月(藤本真との共同報告)	
研究報告書・翻訳など	
「入管法改正論議と技能実習制度」(『建設労働のひろば』、「建設労働のひろば」編集委員会編、No.109、2019年、pp.39-43)	
「職場における能力開発についての管理職の評価・認識をめぐる分析」(『日本労務学会第48回全国大会研究報告集』、2018年、pp.299-306、藤本真との共著)	

ふりがな 氏 名	わにべ ゆきたか 鰐部 行崇
専攻	社会学、グローバル社会学
2000年 3月	経営学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本ベンチャー学会

学歴	
1989年 3月	早稲田大学法学部卒業
2000年 3月	法政大学社会科学部研究科経営学専攻修士課程修了
職歴	
1989年 4月	株式会社東京銀行(現株式会社三菱UFJ銀行)入行(2012年5月まで)
2012年 6月	特定非営利活動法人日本リザルツ入職(2015年7月まで)

学術論文(うち査読付き1編)	
「日本におけるマイクロファイナンス研究の課題と展望」アジア・アフリカ研究第58巻第1号、2018年(査読あり)	
学会発表・招待講演	
「マイクロファイナンスを事例とした多国籍企業の活動に対する一考察——Lスクレーアを手掛かりに」アジア・アフリカ研究所研究会、於法政大学、2018年11月	
研究報告書・翻訳など	
【研究報告】「BRAC研修報告」特定非営利活動法人日本リザルツ(NGO海外スタディプログラム研修報告)、2014年	